

第2学年〇組 図画工作科学習指導案

題材 うっしてうっして

～海で出あった〇〇な、なかまたち～

指導観

○ 本題材は、国語科「スイミー」と関連させ、自分がスイミーのように海を自由に泳ぎまわることができたとして、そこでどのような仲間達に出会い、どのような触れ合いをするのかを自由に想像させていく。そして自分が想像したことを紙版やパス、フェルトペン、絵の具を使って絵に表すことで、表現する喜びを味わうことをねらいとしている。また、次の4点から、本題材は造形的な資質や能力を伸ばすうえで有意義であると考え。

- ① 国語科「スイミー」での場面や気持ちの読み取りの経験を生かすことにより、児童は自分の表したいことを意欲的に表現していくことができる。
- ② 表したいことに合った形や大きさ、配置やまわりの様子などの表し方を考えることができる。
- ③ 表したいことをより表すために、版の材料や描画材の使い方を工夫して表すことができる。
- ④ 制作途中や完成段階で鑑賞することで、互いの表現の面白さを見つけ、見方を広げたり深めたりできる。

○ 本学級の児童は、1学期の「いっぱいゆめいっぱい」で、自分が想像した夢の卵から夢の生き物が生まれている様子を、自分の願いをもとに形を考えてかき、パス使って着色することで、絵に表している。また、「わっ！すごいな」では、2年生になってからの学校生活で一番心に残っている場面をパスの使い方を工夫して絵に表している。活動の様子や感想カードから、2つの題材ともに、それぞれの表現意図をもとに工夫して絵に表すことができていると考える。また、鑑賞活動においては、制作途中と作品完成後にお互いの作

品を楽しみながら見合う姿が見られ、事後のアンケートでも、94%の児童が鑑賞することは楽しいと思っているという結果が出ている。

しかし、自他の作品の面白さに気づき、伝えられるという児童は64%にとどまった。また、作品をお互いに見合った時の感想では、本物のようにかけているかどうかだけで、表し方の面白さまで考えられているものは少なかった。これらのことから、感じ取る力や思考する力を高めることが必要であると考えた。

そこで、2人組で鑑賞の視点に沿って自由に感じたことを伝え合いながら作品を見てまわる活動を行えば、作品の面白さをより味わい、見方を広げたり深めたりすることができ、そのことが感じ取る力や思考する力を高めることにつながると考えた。

- 本題材の指導にあたっては、まず1年生での「ペタペタペタン」での体験を振り返らせたうえで、紙版画の参考作品を鑑賞させ、自由に気付いたことや感じたことを出し合う。次に、簡単な形に模様をつけた版をつくり、刷る体験をさせる。そうすることで、つくり方や刷りの効果などの紙版画の特性をつかむことができるようにする。

表現の活動では、まず、「スイミー」の話と国語科の学習で書いた読み取りノートを読ませて表現意欲を高め、どのような仲間を表すのかを考えさせる。次に、画用紙を主材料として表したいことに合った材料も使って版を作らせる。そして、手順を示し、児童がグループで協力し合いながら活動できるような場を設定して刷っていく。

さらに、表したいことをより表すために、刷ったものを切り取って画用紙の上で動かしながら配置やまわりの様子を考えさせる。そのうえで表したいことに合う描画材料を選ばせてかかせていく。

制作する時には、児童が自分の表現を広げたり深めたりできるように、班の形でかかせ

たり、お互いの作品を鑑賞できる場を設定したりして、友達の表現を参考にできるようにする。

鑑賞の活動では、たくさんの作品にふれさせ、鑑賞することの楽しさを感じさせることと、見方を広げたり深めたりするために、全員の作品を展示し、2人組で見てまわる活動を行う。まず、全体で1つの作品を鑑賞し、鑑賞する際の視点をもたせる。鑑賞の視点は、教師が提示するのではなく、児童の発言を拾い上げ、児童自身に気付かせるようにする。そうすることで、鑑賞の視点を広げられるようにしていきたい。それから、隣の席の児童同士で、お互いを感じたことを話したり聞いたりする。その際、それぞれの児童なりの感じ方が出るように、作者に自分が感じたことを伝えてから作者が表したかったことを聞くようにする。次に、2人組で教室内の作品を見てまわる。鑑賞の視点に沿って思ったことを自由に伝え合うような、自然に見られる姿を大事にしていきたい。この時、教師は鑑賞の視点に沿って作品を見ることができているかどうか見取ることと、なぜそう感じたのか問いかけをしていく。作品を見た後は、感じたことを一言書かせるようにする。

また、作品の展示方法と机の配置を工夫する。具体的には、机の上に椅子を置き、椅子の背に作品を立てかけることと、机を班の形にする。そうすることで、作品と児童との距離を近づかせ、より作品を味わうことができるようにする。

目標

- 紙版画に表す活動に興味をもち、進んで取り組むことができる。
(造形への関心・意欲・態度)
- 紙版画の表し方の特性を知り、どのようなことを表したいかを考えることができる。
(発想や構想の能力)
- 表したいものの形を工夫しながらつくり

版で表すことができる。

(創造的な技能)

- お互いの表現の楽しさや面白さを自分なりの感じ方で感じ、見方を広げたり深めたりすることができる。

(鑑賞の能力)

題材における指導事項・評価規準・指導方法（全8時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体的評価規準	指導事項	指導方法
表 し た い こ と を 明 確 に す る	<p>1. 参考作品を鑑賞する。</p> <p>2. 簡単な形に模様をつけた版をつくり，刷る。 （1時間）</p> <p>3. スイミーの話と自分が読み取ったことを振り返り，どのような仲間を版にするか考える。 （1時間）</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 紙版に表していくことに興味をもつ。（関） 参考作品の面白さを感じ取ることができる。（鑑） 画用紙を使って簡単な版を作ることができる。（技） 紙版画の表し方の特性を感じ取ることができる。（鑑） 表したいことを明確にすることができる。（発） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 描画材を使った表現との違いに注目させること。 ○ 紙版で表現することの面白さを感じ取らせること。 ○ 大きめの紙の上に小さめの紙を貼ってつくること。 ○ 線で表すこととの違いを感じ取らせること。 ○ 大きさや形の特徴を明確にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品などを見ながら紙版面がどのようにすればできるのかを想像させる。 簡単な形に模様をつけた版をつくり，刷らせる。 図工ノートに項目別に詳しく書かせ、自分のイメージをもたせる。
版 に 表 す ・ 刷 る	<p>4. 表したいことが表せるように，版をつくる。（1時間）</p> <p>5. 友達と協力して刷り具合を確かめながら丁寧に刷る。 （2時間）</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 表したいことを細かい部分まで表すことができる。（技） 用具を正しく使って友達と協力して刷っている。（技） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イメージを視覚化できているか振り返らせること。 ○ 刷りの感を確かめながら刷っていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 図工ノートで振り返りながら版を作らせる。 インクの量，ローラー，ばれんの使い方など刷り方の演示をする。
表 し 方 を 考 え 絵 に 表 す	<p>6. 表したいことに合う描画材を使い，まわりの様子をかく。自分の作品を鑑賞する。 （2時間）</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 版で表した仲間の画面上の配置を決めている。（発） どのような描画材を使い，どのようにまわりの様子をかくか考えながらかき，彩色している。（発）（技） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 向きや画面上での位置を考えさせること。 ○ 表したいことに合った描画材を選び，どのように表すのかを考えさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 印刷したものを切りとらせておき，それを画面上で動かしながら配置を決めさせる。 既習内容を振り返らせ，表したいことに合っているかどうかという視点で描画材を選ばせる。

					<ul style="list-style-type: none"> 自分がなぜこのような表し方をしたのかを書いている。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表したかったことを表すためにどのようなことをしたのかを明確にさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> はじめに書いた図工ノートと作品を見比べながら振り返らせる。
鑑賞する	<p>7. 2人組で互いの作品について話したり聞いたりする。</p> <p>8. 教室に展示している作品を2人組で見てまわる。(1時間・本時)</p>	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや表したかったこととそのためにした工夫を話したり聞いたりしている。(鑑) 友達の作品の面白さを味わい、見方を広げたり深めたりすることができる。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりの感じ方で感じ、なぜそう感じたのかの理由を考えること。 ○ 2人で色々な視点から見て、感じたことを伝え合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 作者に自分が感じたことを伝えてから作者が表したかったことを聞くようにする。 2人組で教室内に展示した作品を見てまわり、鑑賞の視点に沿って自由に感じたことを伝え合う。

本時

平成21年9月30日(水) 5校時 教室

本時目標

- 2人組で作品を鑑賞する活動に意欲的に取り組むことができる。

(造形への関心・意欲・態度)

- お互いに作品を見合い、自分なりに表現の面白さを感じ、視点を広げたり深めたりすることができる。

(鑑賞の能力)

授業仮説

作品を見て感じたこととそう感じた理由について話したり聞いたりすることで鑑賞する視点をもたせ、鑑賞の視点に沿って作品を鑑賞して感じたことを2人組で伝え合う活動を行えば、自分なりの感じ方で感じ取って作品の面白さをより味わい、視点を広げたり深めたりすることができるであろう。

準備

- 図工ノート
- 画板
- 鑑賞カード
- ペープサート

本時の指導の考え方

本時は、2人組で作品を見合って、鑑賞することの楽しさを感じさせることと、視点を広げたり深めたりすることがねらいである。鑑賞の視点としては、出会った仲間の形・まわりの様子の色・それらから感じられるイメージを大事にしていきたい。

本時の指導にあたっては、児童がなぜそう感じたのかまで考えることができるように、まず、全体で1つの作品を鑑賞し、鑑賞する際の視点をもたせる。鑑賞の視点は、教師が提示するのではなく、作品を見て感じた児童の発言を拾い

上げ、児童自身に気付かせるようにする。ここでは、児童が感じたことを形・色などに分類して確かめるのではなく、整理して板書するまでにとどめる。そうすることで、児童が自ら鑑賞の視点を広げられるようにしていきたい。なお、発言の際にはそう感じた理由を問い掛けるようにする。それから、活発に発言させるために、隣の席の児童同士で、お互いに感じたことを話したり聞いたりする。その際、それぞれの児童なりの感じ方が出るように、作者に自分が感じたことを伝えてから作者が表したかったことを聞くようにする。

次に、たくさんの作品にふれさせ、鑑賞することの楽しさを感じさせることと、視点を広げたり深めたりするために、2人組で教室内の作品を見てまわる。鑑賞の視点に沿って、思ったことを自由に伝え合うような、自然に見られる姿を大事にしていきたい。その時には、作品の世界により入り込めるように、自分をペープサートで作らせておき、それを指示棒のように使って鑑賞させる。この時、教師は作品を見てどんなこと感じたのかとなぜそう感じたのか問いかけをしていく。また、鑑賞の視点に沿って作品を見ることができているかどうか見取り、できていない児童には全体で鑑賞した時のことを振り返らせる。そして、作品を鑑賞した後、感じたことをカードに書かせるようにする。感じたことを書くことで考えを明確化・深化することができ、カードに感想を書いてもらうことは、それぞれの作品の意味や価値をさらに広げることにつながると思う。

さらに、作品の展示方法も工夫する。具体的には、机の上に椅子を置き、椅子の背に作品を立てかけるようにする。また、机を班の形にして、スムーズに移動できるようにする。これらの場の工夫で、作品と児童との距離を近づかせ、より作品を味わうことができるようにする。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学習活動	具体の評価規準	指導事項	指導方法
導入	<p>1. 全体で作品を鑑賞し、今日の学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて</p> <p>友だちの作ひんのおもしろいところをたくさん見つけて、いっしょに楽しもう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の視点をもつことができる。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の視点を広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品を見て感じたことを出し合う。出たことは整理して板書する。
展開	<p>2. 隣同士で作品を見合う。</p> <p>(1) 作品を見て感じたことを作者に話す。</p> <p>(2) 作者が表したかったことを聞く。</p> <p>(3) 交代する。</p> <p>3. 2人組で教室内の作品を見てまわり、感想をカードに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感じたこととそう感じた理由を言う。(鑑) 自分が表したかったことを言う。(鑑) 友達の作品の面白さを味わい、見方を広げたり深めたりすることができる。(鑑) 感じたことをカードに書くことができる。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの感じ方で感じ、なぜそう感じたのかの理由を考えること。 2人で作品を色々な視点から見て、感じたことを伝え合うこと 多くの作品を見て多くの面白さを見付けること 鑑賞の視点に沿って書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> その児童なりの感じ方が出るように、作者に自分が感じたことを伝えてから作者が表したかったことを聞くようにする。 鑑賞の視点に沿っているか見取り、なぜそう感じたのかを問い掛ける。 ペープサートを使って鑑賞させることで、より作品の世界に入り込ませる。 見てまわりやすいように、机を班の形にする。 児童と作品の距離を近づけるために、机の上に椅子を置き、椅子の背に作品を立てかけるようにする。
終末	<p>4. 活動を振り返り、面白かったと思う作品について少人数のグループで発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の表現の面白さに改めて気付いている。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな視点があり、視点を広げることにより面白さを見付けられるということ。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動して分かったことを活発に交流させることと、さらに視点を広げさせるために、少人数のグループで発表させる。

<p>T : それでは、交代してもらいます。おもしろいところなどをどんどん見つけてほめてくださいね。</p>	
<p>T : それでは今から 20 分間、2 人組でクラスみんなの作品を見て回ります。人がいないところにどんどん行きましょうね。</p>	<p>C : かにの体の毛まであらわしているよ。こまかくてすごいな。 C : 海の青のぬりかたがいいな。パスを重ねているところがきれい。ぐるぐるにぬっているから、あわみたい。</p>
<p>T : 自分の作品の所にもどりましょう。どんな感想を書いてもらっているでしょうか。</p>	<p>C : たくさんほめてもらっているぞ。うれしいな。</p>
<p>T : 班で、今日の学習をして自分が面白いと思った作品のことを話しましょう。</p>	<p>C : ぼくが気付かないことを隣の〇〇さんが言っていました。</p>
<p>T : 今日の学習は楽しかったですか。 どんなことが楽しかったですか。</p>	<p>C : みんなの工夫が見られて楽しかった。 C : 作品についていろいろ話すのが楽しかった。</p>
<p>T : お友達に自分の作品についてほめられてどうでしたか。</p>	<p>C : 自分では気付かないこともたくさんほめてもらってうれしかった。</p>
<p>T : 自分が気付かないこともたくさんほめてもらったと思います。みんながしているいいところ探しと同じですね。いろいろな見方をすれば、たくさんおもしろさが見つけられるということが分かりましたね。</p>	

図工ノート

うっしてうっして
～海で出あった〇〇な、なかまたち～

() 組 名前 ()

めあて

自分が出あったなかまのとくちょうを考えよう。

◎なかまの名前 (れい:サメのさめたろう)

◎とくいなこと (れい:ふねよりもはやい、すごいスピードでおよぐ)

◎体のとくちょう

◎なかまと出あった時のようす (なにをしているのかな・どんなばしょかな)